

★厚労省3年で見切り

就職してわずか1か月で直属の係長が突然出勤しなくなった。先輩は異動するや否や休職。同期は「将来に絶望した」と言い残して退職。

「やりがいを実感できる仕事」として厚労省に入職したが、始発で帰って9時30分の始業に霞が関に舞い戻る生活が3年続いた時に、頭痛や吐き気を感じて休みを取った。移動した部署でも本調子に戻らず、4年目の秋に退職した。これは29歳の大学院卒業の若者の実体験だ。

20代の国家公務員の退職が増えている。一般職・専門職の国家公務員の自己都合退職は2013年度の2倍以上。30歳未満の国家公務員の13%が「数年以内」に辞めたいと回答。「長時間労働」を理由に挙げた人は約4割。日本の中核を担う国家公務員がこのような状態で良いわけがない。睡眠も十分でない判断ミスも間違いも多くなる。国家公務員は労働基準法適用除外です。長時間働いても何ら問題ないという、法に守られていない職種。労働基準法を変えて頂きたいと思います。

★医師の健康確保義務に

改正医療法が成立した。そのポイントは

- ・地域医療を担うなど長時間労働がすぐに是正できない医療機関では、医師に勤務間インターバル制度などの健康確保措置を義務付け
- ・医師以外の医療従事者の業務範囲を拡大し、医師の負担軽減を進める
- ・病院再編への支援を恒久化
- ・都道府県の医療計画に感染症対応を追加

【医師の働き方改革】

- ・働き方改革関連法案に基づき、残業の上限規制を導入したが、医師は診察を拒めない「応召義務」があることから5年間猶予している。
- ・地域医療を担う医療機関で働く医師や研修医については、時間外の上限を原則年960時間、例外的に年1860時間を認める方針。

※医師も国家公務員も優秀な将来を担う人材。早く彼らが安全に働ける環境を作って欲しい。

★ヤマサ難病向け原薬工場

しょうゆ製造大手のヤマサ醤油は、医薬品の有効成分となる原薬の新工場を建設する。難病治療への効果が期待される新薬「核酸医薬品」の原薬を製造するほか、新型コロナウイルスのワクチンの一部原料の生産拠点として活用。医療薬品事業へ投資し大きな収益源として育てる。

新薬は、タンパク質の作用を制御する働きがあり、治療の難しいがんなどの新薬として期待される。新型コロナのワクチンのファイザーとモデルナの原料の生産拠点としても活用。今後に期待される。

★千葉県男性育休9割超に

政府が男性公務員の育休取得率向上を掲げる中、千葉県は2019年度政令市でダントツの92.3%を達成した。数字を押し上げたのは職員に「休まない理由」を聞き取るという発想の転換。

育休を取得した職員は「上司の理解があり、時短勤務や育休を気兼ねなく選べる環境は恵まれている」と話す。

千葉市の男性職員の育休取得率は16年度で12.6%、17年度からは育休を取得しない場合に上司が理由を聞き取る調査を開始し28.7%にアップ。18年度65.7%と上昇した。

2019年度取得率が高かった政令市

千葉市	92.3%
福岡市	20.2%
北九州市	19.3%
さいたま市	18.2%
新潟市	16.2%



徳永康子